

日時: 令和3年 12 月 23 日(木) 午後2時から午後3時

開催場所: Web 会議(高槻市役所総合センター 6階 会議)

出席委員: 10 名

岡村委員、稲田委員、島津委員、柏原委員、望月委員、金沢委員、川島委員、根尾委員、中村委員、野村委員(平井副理事代理出席)

■議題 第7次大阪府医療計画における圏域の中間評価について(三島二次医療圏)
資料に基づき、高槻市保健所から説明。

【資料1】都道府県・地域連携拠点医療機関(三島圏域一覧表)

【資料2】夜間・休日 精神科合併症支援システムについて

【資料3】2021 年度 第7次大阪府医療計画 中間評価 三島二次医療圏

(意見等)

○概ね計画通りに進んでいることが確認できたので、今後も計画に基づいて取組を進めていきたい。

■議題 自殺対策について ①自殺の概要 ②自殺未遂者相談支援事業

資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室地域保健課、高槻市保健所、茨木保健所から説明。

【資料4】大阪府における令和元年・令和2年の自殺の概要

【資料5】三島二次医療圏における令和元年・令和2年の自殺の概要

【資料6】自殺未遂者相談支援事業 令和元年度と令和2年度の対象者の概要(大阪府・中核市保健所)

【資料7】三島二次医療圏における自殺未遂者相談支援事業

(質問)

○自殺未遂者相談支援事業における支援終了理由の「相談希望なし」の割合が、圏域内の保健所間で差異がある理由は何か。

(茨木保健所の回答)

○警察から自殺未遂者の情報提供を受けるが、事業の説明がどの程度詳しくされているかによると考える。すでに医療機関に繋がっているケースや連絡の取れないケースが多くある。

(高槻市保健所の回答)

○警察、三島救命救急センター、市消防本部から事業の協力を受けているが、前捌きをしっかりとってもらっていると感じている。

(大阪府の回答)

○警察から情報提供を受けて連絡したが繋がらない、断られるなど、警察の同意の取り方について保健所から要望が挙がるが、警察は自殺未遂後の混乱の中で、事業の説明をして同意を取っており、細かく説明をしてもらうことは難しい。また、保健所が連絡する中で、一旦は、気持ちが落ち着いていて、「もういいです」という返答になったとしても、その後に悩み事や困り事ができた時に、保健所のアプローチを思い出し、相談に繋がるきっかけになることから、できるだけ幅広く、この事業を紹介して同意を取って保健所に繋いでもらうよう警察にお願いしている。このような理由から、「相談希望なし」の件数が多くなっていると考える。

(質問)

○府内の自殺未遂者相談支援事業における中学生の相談件数に驚いたが、保健所から学校に対して相談窓口を周知している成果ということか。

(大阪府の回答)

○事業の周知は特にしておらず、若年者の自殺未遂が増えている中で、相談件数が増加していると考える。中学生の相談件数は、本人からではなく、家族の希望による家族相談の件数が含まれる。

(意見等)

○一人で悩まないで相談するよう、保健所から大学等に相談窓口を周知すれば、学生の自殺が減らせると感じた。

(高槻市保健所の意見)

○高槻市では、地域のネットワーク強化を図るための会議「自殺対策連絡協議会」に、警察、教育関係、鉄道等の機関に参加してもらい、自殺未遂者相談支援事業の説明や情報共有を行い、連携強化を図っている。また、市内大学等に訪問し、身近な友人等が自殺に追い込まれることのないようにゲートキーパーを養成する研修を実施し、併せて相談窓口の周知を行っており、今後も継続していく。

(その他の意見等)

○名古屋大学の竹内研時先生が 2020 年8月に発表された論文「成人における主観的な口腔健康状態と自殺を考えた経験との関連」において、成人の自殺を考えた経験を把握する方法として、主観的な口腔健康状態が有用である可能性が示されているので、情報提供する。

○北新地の火災の件で、西梅田ところとからだのクリニックが診療休止となり、患者さんが困っている状況で、大阪精神科診療所協会では、大阪府から依頼を受け、協力して対応している。当該クリニックは、2週間処方が多いクリニックでそろそろ薬の切れる方がでてくるが、発達障害圏の方にコンサータを処方しているため、新患で診て貰える医療機関は多くない。対象の患者さんが来られた場合は、コンサータ処方の医療機関の紹介等の対応をお願いしたい。